

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25380880

研究課題名(和文) 心理臨床家と伝統工芸職人の専門的経験の世代継承性に関する発達臨床心理学的研究

研究課題名(英文) Generativity of Professional Identity in Clinical Psychologists and Art Craftsmen

研究代表者

岡本 祐子 (Okamoto, Yuko)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：90213991

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：上の世代の経験、知恵、技が次世代に継承されない「世代継承性の危機」の時代にある現代社会において、心理臨床家と伝統工芸職人の専門的経験(専門家アイデンティティ)が、上の世代から自世代、次世代に継承されていくプロセスとそれに関わる要因を分析した。心理臨床家・伝統的工芸職人共通の心理力動的特質として、師に体現される専門世界への同一化、内在化が認められた。また、専門世界への参入から自立するまでのプロセスとして、Erikson(1950)の精神分析的個体発達分化の図式に示された第1段階から第5段階までの心理社会的テーマが、専門家アイデンティティの形成・発達においても再び繰り返されること示唆された

研究成果の概要(英文)： The purposes of this study were to investigate the process of professional identity and their generativity of psychodynamic clinical psychologists and ceramic artists by semi-structured interview. Main results were the followings: 1. Identification and internalization with their professors or masters were found as the common psychodynamic characteristics between clinical psychologists and ceramic artists. 2. The psychosocial theme from stage 1 to 5 in Erikson's Epigenetic scheme appear over again in the process from entering the professional worlds to getting independence as professionals.

研究分野：心理学

キーワード：世代継承性 アイデンティティ 専門家アイデンティティ ライフストーリー

1. 研究開始当初の背景

現代は世代継承性の危機の時代と言われている。具体的には戦争体験などの継承されるべき過去の重要な事実が語り継がれないこと、後継者がいないために途絶えようとしている高度な技芸が、現代の日本社会に数多く存在することなど、さまざまな面で、上の世代の経験や知恵が受け継がれない事態が生じている。世代継承性の危機という深刻な問題の背景の一つには、専門性(Profession)を受け継ぐ重要な人間関係である「師弟関係」が希薄化していることが大きな要因であろう。それは、情報伝達手段の驚異的・脅威的発達のため、先生に直接教を乞わなくても、研究に必要な情報の多くはインターネットで得られること、師弟関係は、濃い上下関係であるが、このような父権主義はあまり尊重されなくなったこと、専門的職業を担うために不可欠な基本的な人間的強さの劣化などの社会の変化と関連している。

世代継承性には、マクロな継承とミクロな継承の2つの次元が存在する。マクロな継承とは、世代から世代へ受け継がれた包括的な継承であり、不特定多数の他者に価値の世界を伝えていくことである。ミクロな継承とは、師から弟子への face to face の継承であり、口伝の形をとることも少なくない。ミクロな継承は心理的なプロセスとして読み解くことができると考えられるが、いまだ未開拓の分野である。

Erikson(1950)がライフサイクル論・アイデンティティ論を提唱して以来、青年期のアイデンティティやライフサイクル全体を発達のにとらえようとする実証的研究は膨大な数に上っている。しかしながら、成人中期の心理社会的課題である Generativity(世代継承性)に直接、焦点化した実証的研究は、McAdams らのナラティブの分析を中心とした研究の他はほとんど行われていない。

岡本はこれまで、青年期のアイデンティティ形成後の成人期におけるアイデンティティの発達・危機・変容について研究し、成人期の発達の危機

に遭遇するごとに、アイデンティティは再体制化され、ラセン式に発達していくこと、特に40代の中年期は心身にさまざまな変化が見られる転換期であり、アイデンティティの構造的危機期であることを示した。さらに、成人期のアイデンティティ危機を発達の、臨床的視点からとらえ、子育て期の母親のアイデンティティ葛藤(岡本,1999他)、更年期女性の危機と援助(岡本,2004)、キャリア中期のアイデンティティ危機(岡本,2005)、葛藤の深さから見た中年期危機の現れ方とその心理臨床的援助(岡本,2007)などについて、実証的知見を得た。

成人期においてアイデンティティを土台として発現するのが「世代継承性」Generativity である。世代継承性は、人やもの、思想を生み出すこと、他者をケアし支えること、生み出したものを次世代へ継承することを意味するが、専門的職業の世界でそれがどのように行われていくのか、その具体的な心理的特質とプロセスは明らかにされていない。本研究では、申請者のこれまでの研究によって明らかにされた成人期のアイデンティティ発達・変容の心理的特質とプロセスを土台にして、世代継承性の具体的特質(専門的経験(技・精神等)が上の世代から自世代、さらに次世代へと継承されていく心理のプロセス・心理力動・メカニズム)について分析しようとするものである。

2. 研究の目的

本研究は、Erikson(1950)の精神分析的個体発達分化の図式 Epigenetic Scheme において成人中期の心理社会的課題として示された Generativity(世代継承性)の心理のプロセスとその心理力動を、発達の、臨床的、および社会文化的視点から、実証的に解明しようとするものである。本研究は、特に心理臨床家と伝統工芸職人という2つの専門的職業に焦点を絞り、それぞれの専門的経験が上の世代から自世代、さらに次世代へ継承されていく face to face レベルでの世代継承性のミクロな分析を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

50-60代のシニア現役世代の、心理臨床家5名、伝統工芸職人3名、アメリカ合衆国の心理臨床家

8名を対象に集中した個別の半構造化面接を行い、専門的経験の世代継承の心理的プロセス、心理力動、心理メカニズムを、発達の、臨床的、社会文化的視点から分析した。

4. 研究成果

研究1

心理臨床家(日本5名、アメリカ合衆国8名)に対して面接調査を行い、専門家アイデンティティの生成と世代継承のプロセスと心理力動を分析した。日米共通の特質として、

1. 成長期に体験された内的な unfitness(自己不全感、自己と世界の折り合いの悪さ)に向き合い、それを解決していく心的過程と、心理臨床家というプロフェッションの深化が燃り糸のように作用し合うプロセス、
2. 青年期に専門世界に参入して以来、生涯にわたる研鑽の中で、先代から継承したものを深めつつ、独自の特質を生成していくプロセスが認められた。

伝統的工芸職人については、2名に面接調査とフィールドワークを実施した。伝統的工芸職人の場合は、親の専門世界を継承した人が多いが、青年期の職業選択や、その後の熟達のプロセスの途上で、育ちの中で馴染んだ世界と親(=師匠・親方)から受け継いだものと向き合い、葛藤し、最終的にはその専門世界を主体的に選び取っていくプロセスが見出された。

プロフェッションの生成と世代継承に関する心理臨床家・伝統的工芸職人共通の心理力動的特質として、師に体現される専門世界への同一化、内在化が認められた。また、専門世界への参入から自立するまでのプロセスとして、Erikson(1950)の精神分析的個体発達の分化の図式に示された第1段階から第5段階までの心理社会的テーマが、専門家アイデンティティの形成・発達においても再び繰り返されることが示唆された。

研究1は、岡本祐子(編著)2014『プロフェッションの生成と世代継承 - ケーススタディ: 中年期の実りと次世代の育成 -』(ナカニシヤ出版、総頁235ページ、「世代継承性シリーズ」第1巻)として出版した。

研究2

心理臨床家の専門的アイデンティティの生成と世代継承のプロセスを事例研究によって考察した。鑪幹八郎氏(広島大学 名誉教授)を対象に、30時間余にわたる個人面接を実施した(語り手: 鑪幹八郎、聴き手: 岡本祐子・山本力)。アイデンティティの原点としての家族・母親体験・父親体験、歴史的真相としての戦争体験の影響、青年期の「育ち」からの脱却とアイデンティティ形成、精神分析家になるための訓練と専門家アイデンティティ形成と深化、日本の臨床心理学の土台作りへの関与、日本心理臨床学会・臨床心理士の育成への関与、次世代への継承等、鑪幹八郎氏の人生を「境界」という視点から記述・分析した。

本研究は 岡本祐子(編著)(2016) 世代継承性シリーズ第2巻『境界を生きた心理臨床家の足跡: 鑪幹八郎からの口伝と継承』(ナカニシヤ出版、総頁349ページ)として出版した。(本研究の対象者である鑪幹八郎氏には、出版の承諾を得、氏の校閲を経て、刊行済である。)

研究3

本研究のまとめとして『世代継承性研究の展望: アイデンティティから世代継承性へ』(岡本祐子編著、ナカニシヤ出版、2018年8月刊行予定)を編集した。本書は、諸外国と日本で1950-2016年までに発表された世代継承性に関する研究(論文題目に「世代継承性」または "generativity" の用語を含むすべての論文)を領域別にレビューし論評を加えて紹介することによって、世代継承性研究の展望を論じたものである。また日本発達心理学会第28回大会基調講演(講演者: 岡本祐子)の内容を加筆・再構成して、「21世紀のアイデンティティと世代継承性: その視点と課題」として掲載した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

1. 岡本祐子(2017). アイデンティティ論から見たプロフェッションの生成と深化. ヒューマンケア研究, 17(2), 69-80. (査読有)

〔学会発表〕(計1件)

1. 岡本祐子(2017). 現代社会におけるアイデンティティの根・幹と枝の伸びる先. 日本発達心理学会第28回大会基調講演.

〔図書〕(計5件)

1. 岡本祐子・上手由香・高野恵代(2018). 世代継承性研究の展望: アイデンティティから世代継承性へ. ナカニシヤ出版.(印刷中, 2018年8月刊行予定)
2. 岡本祐子(2016). 境界を生きた心理臨床家の足跡: 鑪幹八郎からの口伝と継承. ナカニシヤ出版.(総340頁)
3. 岡本祐子(2016). アイデンティティから世代継承性へ - 世代を超えたアイデンティティの生成と継承. 梶田叡一・中間玲子(編)現代社会の中の自己・アイデンティティ. 金子書房, 42-56.
4. 岡本祐子(2014). プロフェッションの生成と世代継承 - ケーススタディ: 中年期の実りと次世代の育成 - ナカニシヤ出版.(総232頁)
5. 岡本祐子(2014). 「経験」「知恵」「技」「人間力」の世代継承を政策課題に. 子安増生(編)心が育つ環境を作る 発達心理学からの提言 - 新曜社, 195-212.

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡本 祐子 (Okamoto, Yuko)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：90213991

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

鐘 幹八郎 (Tatara, Mikihachirou) 広島大学・

名誉教授

山本 力 (Yamamoto, Tsutomu) 岡山大学・

名誉教授

島袋 常秀 (Shimabukuro, Tsunehide)

沖縄県立芸術大学・名誉教授

上手 由香 (Kamite, Yuka)

広島大学・大学院教育学研究科・准教授

高野 恵代 (Takano, Yusuyo)

愛知淑徳大学・理工学部・講師